

平成24年度第1回長崎県スポーツ推進審議会会議録（要旨）

| | |
|--|---|
| <p>開催日時</p> <p>開催場所</p> <p>出席委員</p> <p>出席職員</p> | <p>平成24年8月30日（木） 午後2時～3時30分</p> <p>出島交流会館11階 産業振興多目的ホール</p> <p>小原委員、野田委員、釣船委員、五島委員、吉村委員、土岐委員、安里委員、山浦委員、大熊委員、太田委員、上村委員、中平委員、柳澤委員、山田委員、小関委員、長尾委員</p> <p>藤原国体・障害者スポーツ大会部長、宮下県民スポーツ課長、石山大会総務課長、森競技力向上対策課長、尼崎参事、島本総括補佐、中村体育保健課長補佐、大原障害福祉課長補佐、小柳課長補佐、上田課長補佐、立石長寿社会課係長、宮田指導主事、井手指導主事 財団法人長崎県体育協会 久田係長</p> |
| <p>会の成立</p> <p>開会</p> <p>あいさつ</p> <p>スポーツ推進審議会の説明</p> <p>会長・副会長の選出</p> <p>会長あいさつ</p> <p>議長選出</p> <p>協議事項</p> | <p>委員20名 出席者16名</p> <p>藤原 国体・障害者スポーツ大会部長 あいさつ（省略）</p> <p>（事務局） 「長崎県のスポーツ推進審議会」について、県民スポーツ課より資料に基づき説明</p> <p>全出席委員の賛同により、会長に小原委員、副会長に高谷委員を選出</p> <p>（省略）</p> <p>会長を議長に選出</p> <p>・国体後の本県スポーツのあり方について （事務局） 県民スポーツ課より資料に基づき説明</p> <p>（議長） 意見・質問等はないか。</p> <p>（委員） 障害者スポーツについて県民の認知度・理解度が低い。障害者にとって心身共に元気で生きていくためには健常者以上にスポーツが必要。長崎がんばらば大会を障害者スポーツ振興の契機と考えキャラバン隊により県内を回って啓発を行っていきたい。本県スポーツのあり方の中に障害者スポーツについて別項を設け、県民のみなさんの理解度・認知度を高めるための施策、方向性を明記して欲しい。</p> <p>（事務局） スポーツ基本法でもユニバーサルスポーツとして取り組んでいるところであり、本県国体後のあり方の中でも障害者スポーツについて、一緒に検討、取り組んでいく必要があると考える。</p> <p>（議長） 公募委員から意見・質問等はないか。</p> <p>（委員） 高齢者がスポーツを始めるにも指導者がいない。健康づくりのためにも、身近なところにスポーツができる機会を与えるために、国体を契機に高等学校を地域へ学校開放し高校の指導者が講習会を開催してはどうか。歩くひとが少なくなっているが、市町、民間でもできることがあると思うので取り組んで欲しい。</p> |

(議長)

高校の学校開放、指導者までお願いできないかとのことだが、高校の事情はどうか。

(委員)

全てを掌握していないが、自分が勤務していた小規模高校は開放していた。現勤務の長崎南高校も要望があれば開放している。

(事務局)

全てを掌握はしていないが、申請があれば高校の行事、部活動等に支障がなければ開放している、以前に比べれば地域にも開かれるようになったと思う。

(委員)

各高校が実情に応じ解放しているようだが、小中学校は学校開放条例により始められたと思う。任意に開放するのではなく地域をモデルケースとして指定し、国体のための指導を継続し、地域に根ざした振興策を考えて欲しい。

(議長)

義務教育で制度的に開放しているところがあるのか。

(委員)

長崎市の小中学校は市の条例で全校開放することになっている。

(議長)

ウォーキングについてどのように進めるのか。

(事務局)

県民にアンケートをとって、してみたいスポーツで一番希望が多いのがウォーキング。総合型地域スポーツクラブや市町に出向き、新しいウォーキングコースの設定に関わったり、健康づくりに役立ててもらうためにコース紹介や講習会に力を入れている。成人の週1回以上のスポーツ実施率65%を達成するためにも重要なスポーツと考え施策を進めている。

(委員)

こどもの目標になれるような選手、オリンピック選手を長崎県からたくさん輩出して欲しい。

(事務局)

平成19年度から国体に向けてトップアスリート発掘・育成事業を行ってきたが、国体終了後も継続しなければいけないと考えている。

(委員)

長崎国体終了後もスポーツをする習慣を持ち続けるよう県にアピールして欲しい。がんばくん、らんばちゃんを国体後も県のゆるキャラとして残して欲しい。自分は諫早市健康福祉部の運動普及員であるが、152名がウォーキング班、のんのこ班、ニュースポーツ班に分かれ運動を普及させている。他地区ではあまり盛り上がっていないので、そういうことも考えてみたらよいと思う。

(事務局)

がんばくん、らんばちゃんの国体後についてはまだ決めていない。長崎県の観光、スポーツ振興にどのような役割を果たせるか、意見を聞きながら検討したい。

(議長)

諫早地区は活発に行われているということだが、良いモデル地区として推進の目標にしていただけたらと思う。

(委員)

子ども達が競技力向上のために早い時期からひとつのスポーツに終始しているが、ジュニア期は複数の競技種目を体験させることが大事と考える。国体後はジュニア期における複数種目とシーズン制度の奨励の立場に立って、総合的な体育向上を目指し進めて欲しい。

| | |
|---------|--|
| | <p>(事務局) 現在県内に34の総合型地域スポーツクラブがあるが、種目を増すことは指導者がおらず難しい状況にある。子ども達が希望の種目を選択出来るように、指導者の情報提供を行いながら種目増につながるよう育成に努めたい。</p> <p>(委員) 高齢者の関係からお願いしたい。平成28年に全国福祉祭が長崎県で開催されるが国体終了の2年後であり、国体を盛り上げながら全国福祉祭につなげたいと考えている。高齢者がスポーツに参加することは、病院に行っていない、引きこもっていないわけで非常に意義がある。長崎県として高齢者の生きがい・健康づくりの柱を作って欲しい。現在、拠点スポーツの地区指定を行いスポーツを進めているが、高齢者の団体である老人クラブの加入率が減少しており、高齢者組織としての強化を図るためにも、関連する行政や組織団体との連携をお願いしたい。</p> <p>(議長) 高齢者の問題は福祉部と県民スポーツ課との連携が必要と考えるがスムーズに進むよう組織として連携をお願いしたい。国体にボランティアの方がたくさん出てくると思うが、それを契機にスポーツボランティアの方を発掘して、地域にお手伝い願うのが必要と思う。</p> <p>(委員) 熱中症や過呼吸の処置など以前のスポーツ医・科学から変わってきている。責任の所在もあり、指導者にリスクが多い。指導者に対する助言・講習会があれば安心して指導ができるので、体制を強化し国体後にうまくつなげてもらいたい。</p> <p>(事務局) トップアスリート発掘・育成事業のスポーツセミナーでは、子ども達と保護者に栄養、水分補給等の説明を行ってきた。また、年2回開催される体育協会主催の競技団体国体強化スタッフ研修会で競技団体の代表者に、スポーツ医・科学面の講習会を実施し、健康の三原則である栄養・睡眠・運動のことや休養についても正しい知識を理解してもらっている。そういう点では、正しい情報が以前よりも広まってきていると思う。</p> <p>(委員) スポーツ医・科学も年々基準が変わるので、専門家であるスポーツドクター、アスレチックトレーナーから指導者、父兄、本人が学べる場を設けることを国体後の目標などに盛り込んでいただければと思う。</p> <p>(委員) 国体で整備された行政施設を県民デーなど開催し、一斉に開放することを考えたら良いと思う。</p> |
| 報告・説明事項 | <p>(事務局) (1) ながさきスポーツビジョン(2011~2015)の進捗状況について (それぞれ、各担当より資料に基づいて説明) 生涯スポーツに関する主要事業 県民スポーツ課より説明 体育スポーツに関する主要事業 体育保健課より説明 競技スポーツに関する主要事業 競技力向上対策課より説明</p> <p>(2) 第69回国民体育大会、第14回全国障害者スポーツ大会開催に向けての主な準備概要について(説明省略)</p> <p>(3) 各種競技大会における主な成績について(説明省略)</p> |
| あいさつ | 藤原 国体・障害者スポーツ大会部長 あいさつ (省略) |
| その他 | (事務局) 次回の本審議会は3月に開催予定です。 |
| 閉会 | 15時37分終了 |